

Cover Story

ご挨拶

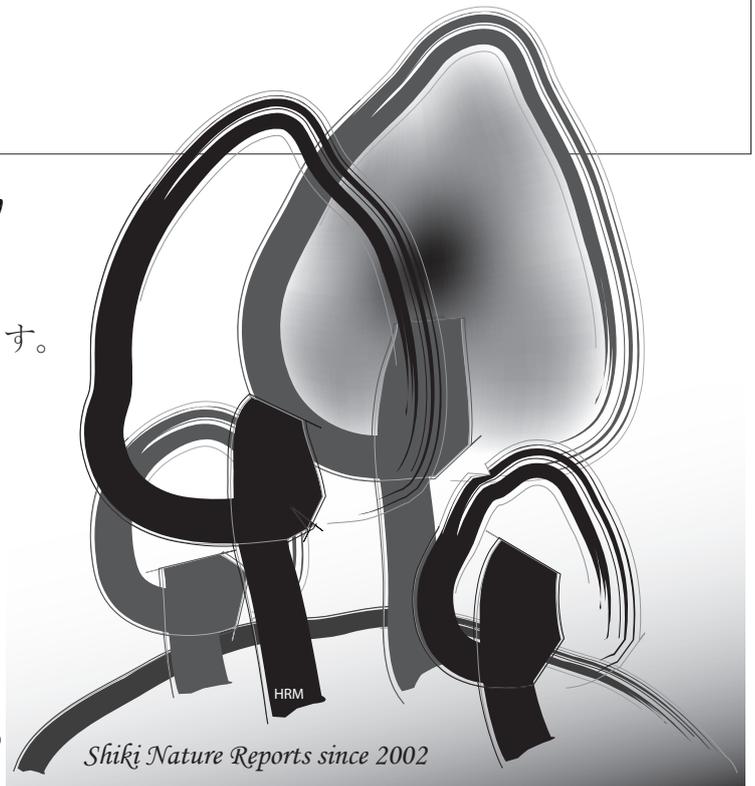
新入生の皆さん、入学おめでとうございます。
心より歓迎します。

毎年のことながら、受験生の多くが志望理由に「豊かな自然の中で落ち着いて勉強したい」ことを挙げますが、多くの生徒が校内にいる動植物を10種も挙げられない「知的貧しさ」を抱えて卒業していきます。本校は、樹木180種を含む600近い植物と20種を超える鳥類、数百種の昆虫が成育する豊かさを誇る環境を有します。

小紙は、その豊かさに気づいてもらうために季刊で発行され、動植物以外にも、気象、天文、地質、地理、歴史、文学etc.とさまざまな分野を網羅しています。

3年間はあっという間です。実り多き時間を過ごされることを心より祈ります。

(Miyahashi)



Botany

チョウショウインハタザクラ

今年の東京の桜の開花は、観測史上2番目に早いなんてニュースでも言っていましたが、志木校でも食堂前の桜のトンネルは卒業式がピークで、入学式ではほとんど終わりかけという感じでしたね。この開花予想はソメイヨシノの開花を基準にしていますが、それより7日くらい遅れて志木市の天然記念物であるチョウショウインハタザクラが開花します。

新入生はまだ知らない人も多いかもしいのでこのハタザクラをちょっと説明します。志木市天然記念物として指定された樹齢400年といわれる桜の木で、その花は旗が立っているかのように花の中央に1枚の花弁が立っています。これは1つの雄しべが花弁に突然変異により変化したものといえわかりやすいでしょうか。なので世界に1つしかないと言われていています。この原木は市内の長勝院というかつて古い寺があった境内跡にあります。実は校内にもそれがあるのです。校内の木は、平成15年にハタザクラが「市民の木」として制定された記念に、その原木から接ぎ木により作った苗を、志木市からいただき、農園の脇に植えたものです。それが10年経ち、4mほどに成長してここ数年花をたくさんつけるようになりました。このハタザクラも入学式あたりがピークだったので、この記事を読むころにはほぼ花は終わっているかもしれませんが、興味ある方はぜひ農園でご覧になってみてください。またこの原木は樹齢400年でもあり、志木市の巨木番付にも入っており、目通り（目の高さでの幹の太さ）3.07mだそうです。

校内の巨木といえば野火止用水沿いの野球場裏の檜だと私は思うのですが、1年生が今度研修旅行で行く小田原の松永記念館にある檜の木が、樹齢400年とかでとても立派です。松永安左衛門はこの志木校の土地を寄贈された方ですが、埼玉から移り住んだのがその小田原の家で、その大檜にちなんで「老檜庵」と名付けています。1年生は来月、「老檜庵」とぜひその檜の木もご覧になってください。

(Izawa)

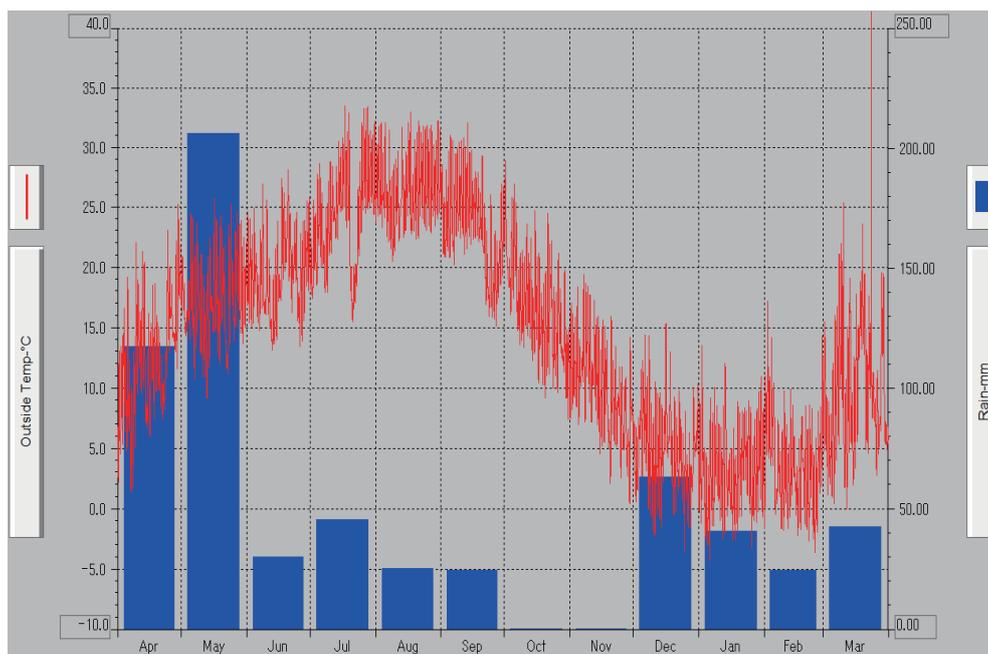
志木高構内の気温変化（2012年度）

1999年度より校内で10分ごとの気象観測を行っています(自動気象観測)。観測している気象要素は、気温のほか気圧、風向・風速、降水量(雪は融けた水量)、湿度、太陽放射量、紫外線インデックス等です。グラフは2012年度（2012年4月1日～2013年3月31日、一部欠測日あり）一年間の気温変化と降水量変化です。

この一年は降水量変化に特徴がありました。5月上旬には動きの遅い低気圧の影響で、北日本・東日本で記録的な大雨がありました。これは寒気が入りやすい状態が長く続き、大気の状態が不安定な日が多かったからです。5月6日には関東地方で竜巻が発生し、大きな被害をもたらしました。一方で、夏から秋にかけての台風シーズンには、関東地方の南を通過した台風はあったものの直撃がほとんどなかったため、降水量はそれほど増えませんでした。例年ですと、関東地方を含む東日本では、梅雨の降水量よりも台風・秋雨の降水量が上回る場所がありますが2012年度はそうなりません。 (関ヶ原をはさみ西日本では梅雨の降水量が台風・秋雨の降水量を上回る。)

このところ毎年そうですが、酷暑・厳冬の傾向は相変わらずでした。志木のデータでは7/24～9/21の最低気温が20℃を一度も下回りませんでした。ただ都内では25℃を下回らない熱帯夜が多いですが、志木では熱帯夜は4日しかなく、23℃くらいまでは毎日下がっていました。一方、12月～2月に明け方、氷点下を記録した日はなんと47日もありました。3か月で47日ですから、およそ半分の日が毎朝氷点下を記録したことになります。そういえば鴨池（教員室下の防火用水）が毎日のように凍っていました。

さて今年はどうな一年になるでしょうか。



Astronomy

パンスターズ彗星は期待外れ、アイソン彗星に期待！

前号でお知らせした「パンスターズ彗星」は、その明るさ予想が2月に下方修正され、明るくなると予想された3月にもやっと双眼鏡でみられる程度でしかなく、期待外れに終わりました。やはり、彗星の予想は当たりません。

しかし11月にやってくる「アイソン彗星」は29日の最接近時にはなんと-13等の予想です。期待外れだとしても肉眼でみられる可能性はありそうです。今のところは昼間の青空の中でも見られるのではないかとされていて期待できそうです。いずれにしても、天気が良く観察できることを祈ります。

(Higuchi)

花びらといっても桜ではない。古典和歌では、春の終わりは落花(桜)、山吹、藤、惜春の順に歌が詠まれるのだが、今回は山吹を取り上げる。

平安朝文学の傑作『枕草子』が感動的なのは、清少納言が中宮定子という没落する側の姫君に仕えていたことによるのだと思う。中宮定子は道長の娘彰子よりも先に入内し、一条帝の寵愛も深かったのにもかかわらず、道長により追い落とされる運命にあった。清少納言が定子の賢さ、美しさ、思いやりとユーモアと気品にあふれた人がらを描けば描くほど、その悲劇が際立つことになる。清少納言は一生懸命な女性なのだが、その一生懸命さはこの没落する姫君の側に立ったからこそ生れたものと思われる。

『枕草子』137段「殿などのおはしまさで後、世の中に事出で来」は、定子の父である関白道隆の死によって政権が道長方へ移り、定子の兄弟である伊周・隆家は流罪、定子も出家するというまさにその時期に書かれた章段である。しばらく里下がりをして清少納言のもとに定子から文が届く。そこには山吹の花弁だけが一枚入っており、「言はで思ふぞ」ということばが添えられていた。場面の秋であることから考えて、この山吹は紙か絹を切ったものだろう。山吹には次の古歌が踏まえられている。

古今和歌集 雑躰 誹諧歌(おどけたうた)

素性法師

山吹の花色衣 ぬしや誰 問へどこたへず くちなしにして

(美しい山吹の花よ、お前の持ち主はいったい誰と聞いても答えはない。なにしろクチナシの実で染めたものなのだから。口無しなので。注 山吹の花をクチナシで染色された黄色と見立てた)

つまり送られた山吹の花弁の意味は、「くちなし」つまり口にはださないけれど、という意味になる。一方、「言はで思ふぞ」は

古今和歌六帖

心には下行く水のわきかへり言はで思ふぞ言ふにまされる

が踏まえられ、言葉に出すよりも強く思っている、という意味になる。

つまり、里に下がっている清少納言に対して、「早く出仕してそばにいてほしい、何も言わずにお前を思っている私の心がわからないのか」という定子からの呼び出しであったのである。この時期の定子の寂しさが思われる。勿論清少納言は飛んでいった。実はこの間清少納言は道長方なのでは、といった陰口が聞かれていたようなので、山吹の花弁に込められた定子の思いは清少納言にとって本当に嬉しいものであったに違いない。

校内で山吹が見られるのは一箇所、図書館裏手テニスコートとの間に一重の山吹が咲く。学名は*Kerria japonica*、日本と中国のみに自生。枝をしなわせ風にそよぐ風情から山吹と名づけられた。山吹は溪流沿いに咲き、『萬葉集』以来清らかな水の流れとともに詠まれることが多かった。

日本人の美意識から今まさに消えようとしているものに「清楚」の感覚がある。山吹とはまさにそんな花だ。

(Hayami)

志木の自然[睦月(1月)如月(2月)弥生(3月)卯月(4月)]

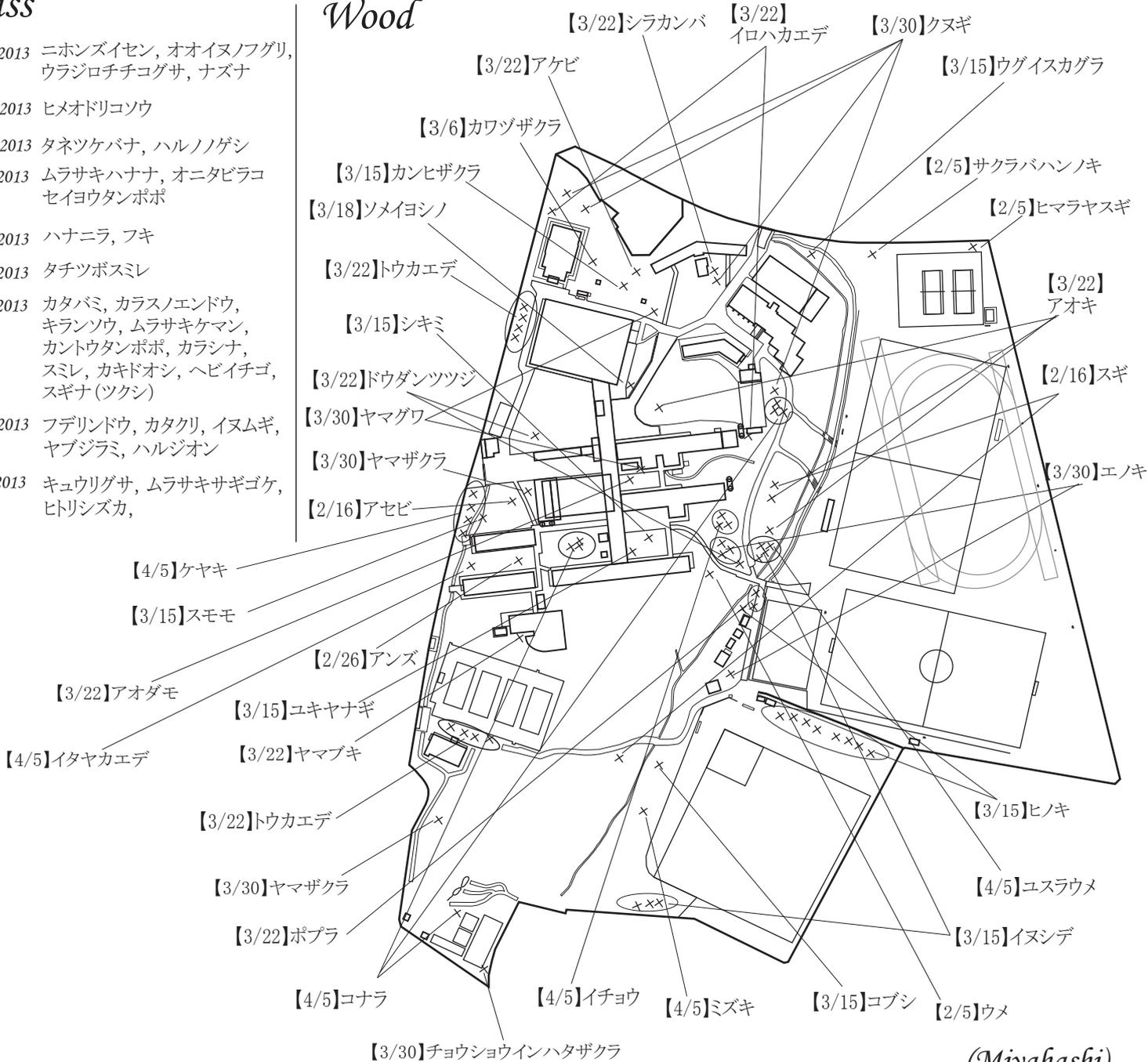
藤の花が咲く季節である。美術室前の庭と体育館横につくった藤棚で今年もきれいな花を咲かせるだろう。美術室前の藤の花はいわゆる「藤色」、体育館横は「白」である。さて当初、この2本の株は花色が違っただけで分類学的には同じ種である“フジ”だと思っていた。しかし、よく見ると巻きが違う。実は、美術室前は右巻きなのでヤマフジ、体育館横は左巻きなのでフジなのである。

[2013年1月～2013年4月までの開花情報]

Grass

- 26. Jan. 2013 ニホンズイセン, オオイヌノフグリ, ウラジロチチゴグサ, ナズナ
- 16. Feb. 2013 ヒメオドリコソウ
- 26. Feb. 2013 タネツケバナ, ハルノノゲシ
- 6. Mar. 2013 ムラサキハナナ, オニタビラコ, セイヨウタンポポ
- 15. Mar. 2013 ハナニラ, フキ
- 19. Mar. 2013 タチツボスミレ
- 22. Mar. 2013 カタバミ, カラスノエンドウ, キランソウ, ムラサキケマン, カントウタンポポ, カラシナ, スミレ, カキドオシ, ヘビイチゴ, スギナ(ツクシ)
- 30. Mar. 2013 フデリンドウ, カタクリ, イヌムギ, ヤブジラミ, ハルジオン
- 5. Apr. 2013 キュウリグサ, ムラサキサギゴケ, ヒトリシズカ,

Wood



(Miyahashi)

この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

| | | |
|---------|----------------|-------------------|
| 執筆・担当区分 | 動物・環境 | 井澤 智浩 (Izawa) |
| | 鳥類・植物 | 速水 淳子 (Hayami) |
| | 天文・気象 | 樋口 聡 (Higuchi) |
| | 植物・地質 他[&発行責任] | 宮橋 裕司 (Miyahashi) |
| | 編集 | 荒巻 知子 (Aramaki) |